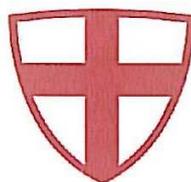

松山フライブルク会会報



編集・発行：松山フライブルク会

まつやま国際交流センター内
〒790-0003 松山市三番町 6-4-20 コムズ 1F

2014年

姉妹都市30周年に向かって

会長 八東 大三

月日のたつのは早いもので、昨年11月に市民訪問団の一員としてフライブルクを訪ねてから早一年になります。環境政策に関する講演及び現場視察では、フライブルク市民の一人ひとりが環境保全を自らの問題として参画していることに感銘を受けましたが、それにもまして25周年記念式典の公式行事が終わった夕方に招待して戴いた Lehen 地区でのワインパーティーに於けるフ市(市民)の「おもてなし」(Gastfreundschaft)が未だに忘れられません。寒気厳しい夕闇の中、屋外で私達のバスの到着を待って歓迎の演奏で迎えて戴いた市役所ブラスバンドには驚きと感動で思わず胸が熱くなりました。そして最後は民族音楽のヴァイオリンに合わせて全員参加の合唱でパーティーを終えました。ドイツ人は冷静で理屈っぽい反面、内には温かい友情を秘めているようで特にフライブルクでは、それを感じます。フランスとスイスの国境に近いからでしょうか、他のドイツ地域と少し違う明るい柔軟な考え方を感じます。そんな所が私がフライブルクに惹かれる一つの要因でもあります。4年後の30周年記念の折には一人でも多くの会員がフライブルクを訪れて「フライブルク大好き人間」になって戴ければなあと思います。聊か気が早すぎるでしょうか。



さて、本年は4月のフ市公式訪問団、10月の市民訪問団を始めとして実に多くのフライブルク市民が来松されました。そして、その都度、会員の皆様の心のこもった「おもてなし」で迎えることができました。きっと「松山大好きフライブルク人」が増えたのではと思います。対応して戴いた会員のご尽力に深甚なる敬意を表します。今年は30周年に向かう次の5年の初年度になります。市民交流には相手方への思いやりと友情、それを具現する行動を続けていくことが大切です。明年度以降も本年同様に市民レベルの交流をすすめて、当会が両市間の教育文化、環境政策等の交流の礎となり、又、輝かしい30周年を迎えられるよう活動を進めて参りたいと思います。皆様の相変わらずの当会活動への参加をお願い申し上げます。

終わりに 会員の皆様の楽しいクリスマスと幸多い新年を心からお祈り申し上げます。

Ich wuensche Ihnen frohe Weihnachten und ein glueckliches Neues Jahr !

以上

表紙の写真説明

フライブルク市 ミュンスターの雪景色と市庁舎前広場のクリスマス市場の景色

2014年4月4日 25周年 記念植樹

沢村 晴香



姉妹都市提携25周年を記念した植樹式は、桜が満開に咲いた松山市総合公園にて行われました。総合公園に到着したバスは駐車場で止まり、記念植樹が行われる展望台へと向かいました。途中、訪問団の皆さんが公園いっぱい咲く桜を見上げて「Sehr schön, Sehr schön!(とっても美しい!）」と言っては足を止めていたのが印象的で、言葉は違っても桜を美しいと思う気持ちは同じなのだと嬉しくなりました。また晴天の空もより一層植樹式のムードを高めてくれたように思います。

今回「ドイツの木」に選ばれ植樹されたのは『フユナラ』です。ヨーロッパ全土に自生する檜(なら)の一種で、育つと高さが20～40mに達する大木だそうです。春には細い円筒状の花を咲かせ、秋にはどんぐりの実も付けます。植樹したのはまだ2m程の大きさでしたが、これから松山市とフライブルク市の交流とともに花を咲かせ、実をつけ、交流の象徴となるような大木になってほしいと思いました。



2014年4月5日 松山・フライブルク姉妹都市提携25周年記念祝賀会

中岡 富茂



フライブルク市長 Dr.ディーター・サロモン氏をはじめ12名の方にドイツから来ていただき祝賀会が開催されました。こちらからは野志市長、中村県知事、多くの議員さん、松山フライブルク会の会員さんなど総勢92名でお迎えし、松山全日空ホテルで盛大に25周年の祝賀会が開催されました。

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館からもフローリアン・イエガー副総領事に挨拶していただいたり、松山バッハ合唱団の皆さん32名による豪華でボリュームのある合唱で場を盛り上げていただきました。

ドイツ語が直接話せなくても通訳を交えたり、身振り手振りで心の交流を確認し充実した祝賀会になりました。



フライブルクバッハ合唱団との音楽交流

松山バッハ合唱団主宰 橋本 眞行

今年6月15日、松山市民会館大ホールにおいて、第5回松山・フライブルク姉妹都市交流演奏会が開催され、フライブルクバッハ合唱団から50名の団員を迎え、松山バッハ合唱団員と併せて100名を超える大合唱団が、ヘンデルの名作「メサイア」を合同演奏いたしました。1995年に第一回の交流演奏会を開催してから丁度20年目、また、両市の姉妹都市提携25周年を記念する演奏会として成功を収めました。フライブルク会のご協力も大変ありがたく、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

両合唱団が数年毎に相互訪問しあって、古今の名曲を合同演奏するという音楽交流の働きかけは松山側から行なったのですが、交流が開始・継続できたのは、フライブルクバッハ合唱団指揮者のハンス・ミヒャエル・ボイアーレ氏（元フライブルク音大教授）の温情に依るところが大きく、音楽面のみならず交流事業の推進についてもリーダーシップを取ってくださったのでした。当初は合唱団の規模や実力の差がかなりあり、フライブルクバッハ合唱団にとってさほどのメリットはないものと思われましたが、ボイアーレ氏は遅れて来る者を温かく見守るという姿勢で接してくださいました。以降、音楽交流は両市間で唯一継続した市民レベルの交流として20年にも亘り、松山の音楽界のレベル向上に多大の貢献ができたものと思われまます。今回の交流事業に併せて、そうしたボイアーレ氏の貢献に対して松山市から「きらめき松山市民賞」が授与されたことは、我々にとっても嬉しいことでした。

交流演奏会は、約1週間に亘る合同練習を行って成果を披露するという結構厳しいものですが、今回は、練習の合間にフライブルクの皆さんに日本の文化を知っていただくため、能教室、お茶席、座禅、日本料理教室、書道体験、そろばん体験、津和地島クルージング、和楽器演奏などのプログラムを用意しました。団員主導で計画されたものですが、松山市、松山国際交流協会をはじめ、それぞれの道を極められた方々のご協力をいただき、どのプログラムも楽しんでいただき、喜んでいただきました。まさに全市を挙げての歓迎ができたものと喜んでおり、今後も苦しみつつ、楽しみつつ、交流を続けたいと考えています。



楽しかった日本の弓道

子川 明治

去る3月14日(金)15時30分より新田青雲中等教育学校体育館でフライブルクからのお客様をお迎えして、弓道の体験をしていただきました。その2,3日前にコムズで、来松中のドイツの方向けの日本料理の講習会がありました。お好み焼きやおにぎり、いちご大福を作ったりしました。その折に弓道も体験してみたいということをお聞きし、学校で授業や部活動を指導しているので来校していただきました。



日本の弓は、世界に類を見ない美しい形を持ち、その引き方も両

手を高く上げてから引き分けるという独特のものです。弓が引けるようになるまでに数ヶ月かかるものなのですが、基礎練習を省略し正式には28メートル先の的のところを、1時間少々での的前10メートルくらいから矢を飛ばせるようになりました。

難しかったようですが、皆さん一生懸命に取り組んでいただき短時間で弓を引くことができるようになりました。勿論初めての体験でしたが楽しかったそうで、日本の伝統文化に触れていただけで良かったと思っています。



~~~~~

## フライブルク市民訪問団と《ワインを楽しむ会》

豊田 充彦

今回のフライブルク市の方々が来松されてのワインパーティーに参加しようと思った理由は、まあドイツ語の知っている範囲の表現で話しかけようかと思ったしだいです。最初の互いのあいさつが終わって、始まると、気が楽になって、楽しもうという気になりました。飲食が進むうちに、ドイツ人とお話をする時が訪れまして、知っている表現で話しかけましたが、相手の答えを聞き取るのに途中から困難を感じるようになりました。

まあ勉強不足ですね。

その後、あるドイツ人夫妻からプレゼントをいただきまして、驚くと同時にありがたく思いました。会話をするには、共通の話題があればよいと思いますし、互いの国の風俗習慣、文化等のことも、よく知っておけばよいのでしょう。まだ私には、日本の文化等の詳しい知識を語るほどの実力を備えていません。今後は、ドイツ語の知識と日本のことを、並行して知識を増したいと思って勉強します。

パーティー終了前にドイツ人の方々が店を出られる際に、『Gute Reise』『Viel Spaß』と言いながら、心をこめてお礼を言ったつもりです。その日の夜は、楽しいひとときでした。

主催に際し、ご準備された会員の方々、ありがとうございました。



## フライブルク便り（おもてなし）

フライブルク在住 大門 学

出発前の台風上陸やルフトハンザのストライキの不安は、松山市を出る頃には既にフライブルク市からの訪問団の脳裏にありませんでした。それは耳にした神輿を担ぐ掛け声、ドイツ人には少し熱めの道後温泉の湯、口にしたフライブルク市では味わえない鮮魚の数々、黒い森では嗅ぐことのできない瀬戸内海の潮の香り、そして松山城天守閣から見た市内の風景、参加者は全ての五感を使って松山市滞在を楽しんだからです。特に松山フライブルク会の方々とのレストラン門田で



受けたおもてなしは忘れられない思い出となったようです。しまなみ街道巡りでは、台風一過で晴天に恵まれ、参加者がスペインの孤島に来たようだ！と感激していた事を思い出します。フライブルク大学元教授でもあるジッペル氏は来島海流を見て、海流から再生可能エネルギーを作ることができると確信しており、フライブルク市民の環境保護意識はどこにいてもあるものだと驚きました。

「日本では支払い時にどのくらいのチップを渡せばいいのですか？」レストランからタクシーまで、欧州で受けるサービスには料金とは別に10%程のチップを払う習慣があります。日本ではチップの習慣がなく、サービスはおもてなしの文化であり、それは金銭には変えられないということを出発前の説明会にて伝えた事を覚えております。今回訪問団が松山市滞在期間中、また日本旅行中に受けたおもてなしは確かに金銭に換えることができない貴重な体験だったと思います。言葉や文化の違う国から来た17名の訪問団が短い滞在期間で、是ほどの友情と思い出を作ってきたこと自体、素晴らしい市民同士の交流であると同時に、日本人のおもてなし文化を体験して下さった証だと思います。遅くとも姉妹都市提携30周年記念の際にはフライブルク市でおもてなしをしたいと訪問団の方々は松山市民の皆様との再会を楽しみにしております。



## 「ドイツのティータイム楽しむ会」に参加して

武智 千里

今年も恒例のドイツ料理教室が、3月2日、コムズ調理室で開催されました。会員、一般の方合わせて30名が、しかも若い女性が多く参集し、「ドイツのティータイムを楽しむ会」と銘打って、ドイツの伝統菓子3種(バナラキプフェル・ココスマクローネン・ハイデサンド)を習いました。



講師は、河原パティシエ・医療・観光専門学校のドイツ人マイスターであるエンゲルハート・ハインツ・ウルリヒ先生。通訳兼助手は、奥様の杉沢多美子先生です。

1種類ずつ粉を練るところから形成まで、懇切丁寧な説明と実演を見せて頂きました。習う方もみんな、メモを片手に覗き込んだり写真を撮ったりと、熱心です。実演の後は自分たちが作る番。3グループに分かれ、1グループが1種類ずつ作りました。焼き始めると室内は甘い香りに満たされ、その中で先生は、焼いてきたチョコレートのスポンジケーキにサクランボや生クリームを使っの仕上げを見せてくれました。シュバルツヴェルダー・キルシュトルテの完成です。

その後の試食ティータイムは、言うまでもありません。自分たちで作った伝統菓子のクッキーは、さくさくとしていて口に入れると、ほろっと砕け、溶けてしまいます。バターを沢山使っていますが、軽い口当たりです。ケーキは、たっぷりの生クリームが程よい甘さでチョコレートのケーキを引き立て、又、チョコレートとサクランボの酸味が絶妙なバランスで、1つと言わずもっといけそうです。先生からドイツのお話を聞きながら、「満足、満足」で少々時間オーバーになりました。

次回の案内が早くありますよう、とても楽しみに待っています。



松山フライブルク会のホームページに「ビデオ」も掲載されています

<http://www.matsuyama-freiburg.com>

松山フライブルク会

検索

## ブリタさんとの料理教室

門田 真知江

8月21日、フライブルグ市から短期日本語留学中のブリタさんと昼食の料理作りを楽しみました。ブリタさんはドイツで高校の教師をされていて、夏休みを利用して日本語を学びに松山に来られていました。

今日のメニューは、巻きずし、天ぷら、五色そうめん、季節の果物です。

簡単な自己紹介をして作り方の説明をしました。日本語に英語も混じり、困った時には八東会長さんや敷村さんの助け舟があります。

いよいよ調理に入ります。巻きずしに海苔をのせ、酢飯を広げ、真ん中に具を積み、くるっと巻きます。初めは慎重に、次第に手つきも良くなってどんどん巻き上がっていきました。いよいよそれをまな板の上で切ります。具が真ん中にきれいに収まっているのを見た途端、「やったね！」とみんなの笑顔がはじけました。日本語あり、ドイツ語あり、ジェスチャーありでどんどん調理がすすみます。



さっそく試食タイム。ブリタさんもお箸を上手に使われました。みんなで囲む食卓はおいしく、和やかで幸せを感じました。

この後もお元気で松山での充実した日々を過ごされることを願い、お別れしました。

翌日は会長さんのお宅に招かれているとのこと、明日もきっといい日であると思われます。日本の食文化を通じて交流の楽しいひと時に感謝しています。

## 編集後記

松山市に於いて、姉妹都市提携25周年記念行事が開催され松山フライブルク会にとっても記念すべき年となりました。フライブルク市長ご夫妻始め市議の皆様は環境フェアの見学や当会のブースにお見えになり、質問やクイズに挑戦の一幕もありました。30周年に向け市民の国際交流の場として、今後も皆様方のご支援をお願いいたします。

2015年、良いお年をお迎えください。

西村恭子・中岡富茂・武智千里

松山フライブルク会のホームページが出来ました  
ミュンスター寺院の鐘の音等もビデオで紹介しています

<http://www.matsuyama-freiburg.com>

松山フライブルク会

検索

